

わが人生の日本語

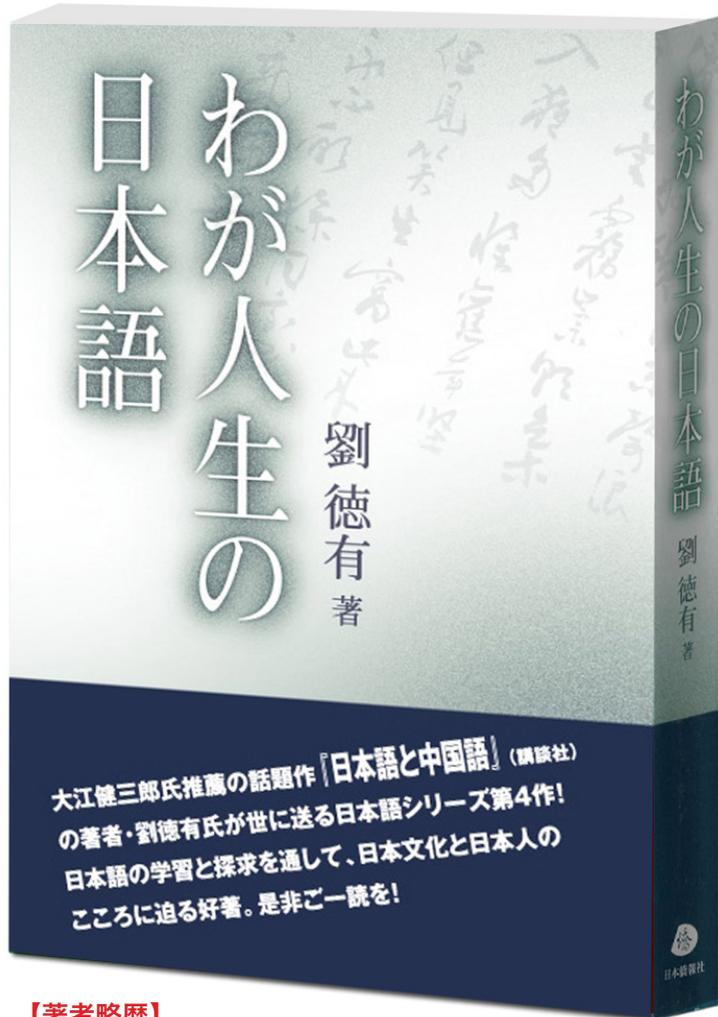
大江健三郎氏推薦の話題作『日本語と中国語』（講談社）の
著者・劉徳有氏が世に送る日本語シリーズ第4作！

【内容紹介】

幼いころから日本語を学び、五十数年もの間、日中関係の仕事にたずさわってきた筆者がどのようにして日本語を身につけ、また、それぞれの時期にどんな気持ちで日本語に接し、かかわってきたか？とりわけ、長年の翻訳の仕事と、毛沢東や周恩来の通訳を務めるなかで、失敗を繰り返しながら日本語を習得した経験などに触れ、楽しいエピソードをまじえて現場の様相を紹介。

劉徳有著

日本僑報社 ISBN 978-4-86185-039-4



【著者略歴】

劉徳有 1931年中国遼寧省大連に生まれる。中華人民共和国文化部（省）元副部長（次官）。第七、八期全国政治協商会議委員 現職 中国対外文化交流協会常務副会長、中華日本学会名誉会長、中国中日関係史学会名誉会長、郭沫若研究会名誉会長、漢俳学会会長、中日詩歌比較研究会会長、中国国際交流協会顧問、北京大學客員教授、北京外國語大學名譽教授、首都師範大學名譽教授、外交學院兼職教授、天津科技大學名譽教授



2007年(平成19年)9月8日 土曜日

故毛沢東主席や故周恩来首相の通訳として活躍した中国の元文化省次官の劉徳有さん(76)が、戦



毛主席らを通訳
秘話や文化論
半生をつづる

後の日中関係に携わった半生を振り返った「わが人生の日本語」（日本僑報社）を出版。通訳時代の秘話や中国人から見た日本文化論を日本語でつづっている。

たことから、周首相は「現職の身では難しいですが、もし仮釈放のようなら『仮辞職』できれば訪問できるのでは」と残念そうに語ったのが印象的だったという。

光明日報、新華社の特派員として日本で15年間暮らした知日派。「戦略的互恵関係も大切だが、情を重んじた先人から学ぶことは多い」

（峯村健司）

ご注文は、日本僑報社 e-shop (中国研究書店) をご利用いただくか、またはこのチラシを書店にご提示ください。(トーハン 日販 その他 取次コード：5752)

	<p>わが人生の日本語 ISBN 978-4-86185-039-4 発行日：2007年3月1日 単行本 332頁 定価：本体 2500円 + 税</p>	<p>注文部数</p>	<p>ご注文 / 番線印</p> <p>ご注文の方は、注文部数、住所、氏名、電話番号をご記入ください</p>
	<p>日本僑報社 e-shop http://duan.jp</p>	<p>部 (送料無料)</p>	
<p>送信 FAX 03-5956-2809</p>			